

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：80101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00952

研究課題名（和文）近代日本におけるアイヌ民族の社会への参画の歴史に関する基礎的研究

研究課題名（英文）A Historical Study on the Actual Situation of Ainu People's Social Participation in Modern Japan

研究代表者

小川 正人（Ogawa, Masahito）

北海道博物館・研究部・アイヌ民族文化研究センター長

研究者番号：10761629

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：この研究では、近代日本におけるアイヌ民族による社会参画を目指す取り組みの歴史を調査し、その実態と特徴を分析することを目的とし、特に、日本社会における公教育を受ける権利を求める活動や、より高い学歴を目指す活動、自分たちの生活基盤を確立するための土地の確保を目指す活動、地域の社会基盤の充実を目指す活動などに着目して、これらの実態を明らかにした。様々な事例を通して、地域の社会基盤の整備（学校の設置など）などの活動はアイヌ民族の相当の努力によって一定の実現をみる一方で、広い土地の確保や政治的権利（例えば道政や国政への参画など）については実現が極めて困難な実態がある等の歴史的な特徴が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

- ・近現代日本におけるアイヌ民族の社会への参画を目指す意志や活動の実態について多くの具体的な事例を明らかにした。
- ・「その意志や活動が生じるに至った歴史的背景」「周囲のアイヌ民族や、マジョリティの人々、行政の対応」「その意志や活動がどのように実現したか/しなかったか」の諸点に着目して実態を分析することにより、厳しい歴史的条件のもとでのアイヌ民族の意志や活動の実態と、それらが置かれていた社会的環境（アイヌ民族を包囲する多数者の意識や行政の態様）を明らかにした。
- ・特に、1920～30年代以降における地域の生活基盤の確保を目指す活動や、自分たちで伝統文化の客観化を目指す

研究成果の概要（英文）：This study investigated the history of efforts aimed at social participation by the Ainu people in modern Japan, and analyzed their actual conditions and characteristics. Through this research, I have clarified the actual situation of activities in Japan society that seek the right to public education, activities that aim for higher educational attainment, activities that aim to secure land to establish their own livelihood base, and activities that aim to enhance the social infrastructure of the region. I paid particular attention to the fact that activities such as the development of local social infrastructure (e.g., the establishment of schools) are realized through considerable efforts by the Ainu people, while securing larger areas of land and political rights (e.g., being involved in Hokkaido and national politics) are not realized despite the efforts of the Ainu people.

研究分野：近代アイヌ史、アイヌ教育史

キーワード：近代アイヌ史 アイヌ教育史 近代北海道史 先住民族の近現代史 社会への参画

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

・従来の近現代アイヌ史では、近代日本の成立過程において、アイヌ民族が政治・経済・社会・文化のいずれにおいても極端な少数者の位置に置かれてきたことは指摘されていたが、多くの研究は、アイヌ民族に対する差別・収奪を指摘するか、またはアイヌが「悲惨」な状態にあることを指摘しつつも、そのうえでもっぱら行政・篤志家の「保護」を顕彰するものが依然として見られる状態であった。「アイヌを主体としたアイヌ史」「アイヌ民族の歴史に対する正しい理解」などの必要が求められていた一方で、それらについて、概括的にその必要を論じることにとどまらない、基礎的な史実の把握を踏まえた実際の歴史叙述・歴史像の描出に向けた方法の検討とその実践が求められていた。

2. 研究の目的

・本研究では、このような状態を克服するための研究の一環として、アイヌ民族が、近代日本の中で少数者の位置に置かれている中で、敢えて地域や社会に様々なかたちで参画を目指した歴史に着目し、それらの実態を明らかにすること、その際、「アイヌ自身が、どのような歴史的条件のもとで、そのような参画のあり方を目指すことになったのか」「アイヌ民族自身の社会に対する認識と、時代の行方に対する意志・展望はどのようなものだったのか」を明らかにし、かつ「それぞれの参画への試みは、どのような経緯をたどったのか、とりわけ、社会の多数派の側や行政・政治の対応はどうだったのか」に着目することを意識した(このことによって、例えばアイヌ民族が日本の学校教育を求めたことを、単なる「同化教育の受容」ととらえるような状態を脱却することを目指した)。

・具体的には、教育の充実や社会資本の整備、様々な職業での活躍など、近代日本社会に様々なかたちで参画を目指した歴史について、先ず基礎的事実となり得る事例や人々の足跡を把握すること、それらを通して「アイヌ自身が、どのように社会の現状を認識し、時代の行方を展望しようとしたのか」を明らかにし、「それぞれの参画への試みは、どのような経緯をたどり、それはどのような状況の反映なのか」を考察することを目指した。は、これらをあわせて行うことで、概括的な議論に陥らない具体性・個性に即した基礎的史実の集積を図りつつ、単なる逸話の集積にとどまることの無い、近現代アイヌ史としての特質や問題点の把握を目指し、それらを通じた近現代アイヌ史像の構築を目指した。

3. 研究の方法

本研究は、次のような手法・手順により進めた。

(1) 具体的な史実の調査

・研究代表者のこれまでの研究成果や本研究課題の協力者として参画を求めた道内各地の博物館学芸員等の知見をもとに、近現代日本におけるアイヌ民族による様々な社会参画の事例の情報を集め、これらに関する基礎的資料の調査を行い、具体的な史実の集積につとめた。

・その際、「2 研究の目的」でも述べたとおり、社会参画の事例集積において、そうした参画を目指すアイヌ民族の意思や活動の歴史的文脈(「なぜそのような参画を目指したのか」「それはどこまで・どのように実現したのか、できなかったのか、それはなぜなのか」「その参画のあり方の、その後の経緯はどうなったのか」)の把握を意識した。(例えば、学校の設置を目指した事例を調査・検討する場合、そのような要求に至った背景の把握、設置された学校の設置・維持の実態の把握、その学校におけるアイヌの子どもが置かれた状態や設置後の学校運営の行方、等を明らかにしていくことにつとめた。)

・この調査は、主として研究代表者である小川が行ったが、適宜、上述した各地の博物館学芸員の協力を得た。またその際、例えばキリスト教の教派による学校設置などについて、それらに関する資料群の体系的な調査を行っている研究者・学芸員を招いた勉強会等を行い、より充実した知見の集積を目指した。

(2) 知見の集積と分析

・(1)により得られる具体的な事例について、個々の事例に即した検討をその都度進めるとともに、適宜、他の研究者との研究討議の場に参加し、またアイヌ史研究の成果と課題を検討する研究会を自ら開催する(2022年度)等、関連する分野についての最新の知見の参照や摂取、より多くの観点からの検証・検討の機会を設けることにつとめた。

・本研究課題の中間段階から、成果の発表の機会を設けることにつとめ、かつ、それらをそれぞれの事例・課題にゆかりの深い地域で行うようにすることで、成果発表の機会において参加者との質疑等を通じた新たな知見の獲得やさらなる課題の設定につとめた。

(3) その他

・本研究課題では申請当初(2020年8~9月時点)では特にキリスト教の教派による伝道活動に関わる史実について教派のアーカイブを調査するためと、サハリンにおけるアイヌ史の実態について現地の博物館資料やサハリン州公文書館を調査するための海外調査を計画していたが、

これらは新型コロナウイルスによる感染症の拡大とその長期化のため、本研究課題の研究期間における実施は見送らざるを得ないと判断し、関連する資料の国内調査に注力するとともに、これらの資料に関する第一人者を招いた勉強会の開催等により知見の獲得につとめ、所期の目的の達成につなげた。

4. 研究成果

(1) 研究成果の主な内容

・アイヌ民族による社会参画を求めた事例の発掘と集積

研究代表者の専門領域である教育史では、学校の設置、学歴の獲得、学校における教育条件の整備・充実、差別・格差の解消(よりアイヌ民族に対する理解の深い教員を求めることを含む)のほか、キリスト教・仏教などの私立学校に対する意識や要求などの関わる事例を確認することができた。このほか、地域社会の整備(いわゆる社会資本の整備) 地域における集団的な生活基盤の確立を求めたより広い土地の確保を目指した取り組み(1910~30年代にいくつか見られた) 地域の行政(町村議会)やより広域的な政治(道政・国政)への参画を目指す動き、自分たちの伝統文化の客観化(資料の収集と展示、解説)とその披露(講演、公演や資料館の開設など)について多くの知見を得ることができた。

・これらの事例の中で、本研究課題において初めて明らかになったもの、仮設的な段階ではあるが、近現代アイヌ史上のある歴史的な時期としての特徴的な動きと考えられる活動を考えられるものなどを確認することができた。また、本研究課題における調査によって、新たに地域におけるアイヌ民族の活動や発言が比較的多くしるされた資料群を発見できたものはいくつかあり。それらの調査を行うとともに、それらの資料群に基づく今後の新たな研究課題の展望を得ることもできた。

・これらの事例に関する背景やそれぞれの社会参画の取り組みの経緯などを明らかにすることを通して、比較的ではあるが、ある程度は達成されるもの(学校設置や地域の社会資本整備、町村行政への参画など)と、入口的なところで大きな壁にぶつかる等により実現が阻まれたもの(大規模な土地の獲得や道政・国政への参画など)……といった特徴が見られること、また、学校設置のような場合でも、いったんは自分たちの地域の学校として設置されながら、それが移住者の増加に伴い移転する等の、社会的な諸条件の変容に遭う事例が多い等の知見を得ることができた。

(2) 成果発表・提供の方法

本研究課題による研究成果として公式に発表した論文等は別掲のとおりであるが、発表・提供の方法については次のような諸点に留意した。

・論文・調査報告等のいわゆる活字媒体での発表については、資料紹介などの基礎的の成果の発表(社会的な共有)と、成果を踏まえた近現代アイヌ史に関する見方・考え方を述べるものなどに意識的に取り組んだ。

・研究方法等でも記載したとおり、研究会・勉強会に参加するか、もしくは主催することを通して、研究成果の中間的な発表と、その検討及び新たな知見の獲得とを重ねながら進めることを目指した。

・研究成果の口頭発表(講演を含む)については関連する地域で行うことを意識した。

・研究成果を反映される場・機会として、研究代表者の勤務先である北海道博物館における展示をはじめ、国立歴史民俗博物館の企画展示(「学びの歴史像 わたりあう近代」(2021年)、平取町立二風谷アイヌ文化博物館特別展「英国聖公会宣教師ジョン・パチラーの足あと」(同)におけるアイヌ史関連の展示制作などに参加・協力させていただき、展示というかたちを通じた具体的な事例の紹介や歴史像の提示につとめた。

(3) 今後の課題への展開・展望など

・本研究課題の実施を通して、まず、本研究課題において設定した課題と方法について、その有効性を確認することができ、本研究課題にそって引き続き近現代アイヌ史研究を深めていくことの必要性があるとの認識を得た。

・このことにとどまらず、本研究課題を通して、これまでの研究ではあまり知られていなかった動き(例えば近現代におけるアイヌ民族自身による伝統文化の客観化と資料収集・展示等の取り組み)を1950~60年代以降の歴史に繋げる研究課題や、アイヌ民族による社会参画とそれに対するマジョリティの意識や対応を、より全体的な近代北海道史、近代日本史などに反映させた歴史叙述を達成する研究(実践)課題が設定できる(する必要がある)と考えている。

前者は、近現代アイヌ文化史とでも呼ぶべき課題を深めることに繋がるのでは、と展望しており、後者は、今まさに、アイヌ民族の歴史に関する多数者の理解が求められ、ヘイトスピーチ的なかたちで先住民族に関わる歴史の理解が妨げられない事態、先住民族が心身に大きな脅威を蒙る事態が相次いでいるなかで、喫緊の必要性が高い課題ではないかと認識している。

(以上)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 小川正人 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 〔資料紹介〕2023年度新収蔵資料の紹介2 大川原徳右衛門の選挙ポスターと三浦政治の書簡 | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 55-72 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小川正人 | 4. 巻 849 |
| 2. 論文標題 アイヌ民族の近代史を考える 教育をめぐる歴史を中心に | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 部落解放 | 6. 最初と最後の頁 55-69 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 小川正人、西田秀子 | 4. 巻 8 |
| 2. 論文標題 中村一枝書誌 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 113,133 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小川正人 | 4. 巻 827 |
| 2. 論文標題 〔本の紹介〕『アイヌ通史 「蝦夷」から先住民族へ』 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 部落解放 | 6. 最初と最後の頁 70,71 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 小川正人 | 4. 巻 694 |
| 2. 論文標題 札幌からアイヌの歴史を考える：中央区北3条西7丁目の20世紀 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 開発こうほう | 6. 最初と最後の頁 25～29 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小川正人 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 秋中美枝書誌 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 51～71 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 小川正人 | 4. 巻 66 |
| 2. 論文標題 本の紹介 リチャード・シドル著『アイヌ通史 「蝦夷」から先住民族へ』 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 京都部落問題研究資料センター通信 | 6. 最初と最後の頁 3～6 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1. 著者名 大谷洋一、小川正人、遠藤志保 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 [調査報告] 平賀サダ書誌 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 61～112 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 〔シンポジウム基調報告〕アイヌ教育史研究の有効性を問う |
| 3. 学会等名 教育史学会第67回大会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 山辺安之助 自ら学校をつくる |
| 3. 学会等名 さっぽろ自由学校「遊」連続講座「20世紀を切り開いたアイヌ列伝」（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 長万部出身の教育者・伝道者 江賀寅三さんについて |
| 3. 学会等名 長万部町 アイヌ文化講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 近代アイヌ教育史をつくった人たち 平取ゆかりの人々の足跡からたどる |
| 3. 学会等名 二風谷アイヌ文化博物館関連講座関連講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 一枚の選挙ポスターから見る、アイヌ民族と選挙の歴史 |
| 3. 学会等名 北海道博物館ミュージアムカレッジ |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 「従順ナル民族」という認識 近代日本社会とアイヌ民族 |
| 3. 学会等名 文化センター・アリラン連続講座 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 小川正人 |
| 2. 発表標題 アイヌ民族の近代史を考える 教育をめぐる歴史を中心に |
| 3. 学会等名 第54回 部落解放・人権夏期講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2023年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 著者名 北海道（総務部行政局文書課道史編さん室） | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 北海道 | 5. 総ページ数 1212 |
| 3. 書名 北海道現代史 資料編3（社会・文化・教育） | |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 関根 達人、菊池 勇夫、手塚 薫、北原 モコットウナシ | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 吉川弘文館 | 5. 総ページ数 708 |
| 3. 書名 アイヌ文化史辞典 | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 北海道総務部行政局道史編さん室 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 北海道総務部行政局道史編さん室 | 5. 総ページ数 840 |
| 3. 書名 北海道現代史 資料編2 産業・経済 | |

| | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小川正人（共著）、国立歴史民俗博物館 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 国立歴史民俗博物館 | 5. 総ページ数 218 |
| 3. 書名 展示図録 学びの歴史像 わたりあう近代 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|---------------------------|--------------------|
| 国際研究集会 アイヌ近現代史の〈現在〉を語る | 開催年 2022年～2022年 |
|---------------------------|--------------------|

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|